

令和4年度 江戸川区立松江第六中学校 学校関係者評価 最終評価用報告書

学校教育目標	【開拓の心を身に付け、志をもち、自ら育つ生徒】 ・学び考える生徒 ・他を思いやる生徒 ・心身たくましい生徒	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	○生徒に学力を身につけさせるための授業の充実と遅れがちな生徒への学習支援 ○生徒が安全に活動でき、安心して落ち着いて学べる教育環境づくり ○生徒が自己実現でき、自分を成長させる機会や場の充実
前年度までの学校経営上の成果と課題	＜成果＞・ここ数年、学校が落ち着いた状態を維持できている。生徒は授業に集中し乱す者はいない。あいさつは全学年できている。 ・学校行事は3年生が手本となり下級生を引っ張っている。・安定した小中連携ができています。 ＜課題＞・男女の学力差があり全体的に家庭学習が不足しているため、学力的に低い生徒へ学習意欲を高めさせ、学力を向上させること。 ・不登校生徒や特別な配慮を要する生徒への対応を丁寧に行っていくこと。		

教育委員会 重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		来年度に向けた 改善策
					取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
いきいきと学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	・7つの主な事業(取組)に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・eライブラリ・スタディウィークの実施 ・放課後補習教室の実施 ・学習コンテスト、補習の実施 ・各種検定試験 年2回	・定期考査での下位層の割合が昨年度以下	A	B	○漢字・英単語・数学コンテストの実施、基準点に達しない生徒への再テスト及び学習会を実施 ○全国学力調査結果は都を上回る ●下位層の引き上げが不十分	B	○授業規律がしっかりしており、生徒の意欲が高い ○各種検定試験を更に多くの生徒が受けられるようにアナウンスを ●補習の質的な充実を	・定期考査前の補習の充実、考査後の振り返りの実施 ・授業UDのさらなる徹底
	体力の向上	・「運動意欲の向上」に向けた取組の実施・改善	・毎回の体育授業時に種目別の補助運動を実施	・体力測定の体力合計点の区平均以上	A	B	○1. 3年男子の体力合計点が区平均以上	B	○体育の授業への意欲的な取組が見られる ●補助運動の継続的な取組を	・補助運動の継続、体力測定時の都の記録の提示(目標値の設定)、小学校との連携
	読書科の更なる充実	・読書を通じた探究的な学習の実施・充実(読書科ノートの活用、資料の収集の仕方や記録の取り方の指導、自己の考えをまとめ表現する方法の指導、朝読書と1単位時間の授業との関連付け、他教科との関連等) ・学校図書館の整備、学校図書館を使った授業の充実	・学校図書館開室 120日 ・朝読書・探究活動の充実 ・図書館職員巡回配置を活用した、利用しやすい学校図書館の実施	・図書館利用者延べ1000人 ・全生徒が研究成果物制作 ・図書館職員巡回配置(月2回)	B	B	○図書委員会による推薦図書の掲示 ○読書科での探究的な学習の成果物を意欲的に作成 ●図書館利用人数の減少 ●決まった生徒のみの図書室利用	B	○生徒作成の成果物・掲示物が見られてよい ○生徒の熱意が伝わる作品が多い	・図書館職員のさらなる有効活用 ・図書館を利用する生徒の増加、使用機会の増加に向けた新規の取組
	教員研修の充実	・一人一台端末を活用した授業実施に向けた研修の実施・充実	・校内研修での取組 ・ICT支援員の活用	・タブレットを活用した研究授業の実施	B	B	○各教科でのタブレットの効果的な使用を目指しての校内研修と研究授業 ○ICT支援員による研修会の実施	B	○ICT機器が授業の中で有効に使われていて生徒の集中力も増していた	・生徒の主体的な学びにつながるICT機器の活用方法の検証
	教員の授業力向上	研究授業、都教委訪問等を通した、教員の授業力、指導力の向上	・授業観察と研究授業年3回 ・都教委訪問年1回	・生徒授業評価で肯定率85%以上	A	B	○生徒の授業評価の肯定的評価は平均95% ○区教委訪問及び区内管理職を招聘しての研究授業	B	○各教科で積極的に授業改善を行っている	・全ての生徒を取り残さない授業づくりの推進 ・共通のテーマでの教員研修
特別支援教育の充実	共生社会の実現に向けた教育の推進	・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の充実	・スクールタイマーの全教室設置や板書、指示等の工夫 ・エンカレッジルームの活用 ・副籍交流の推進	・生徒授業評価で肯定率85%以上 ・エンカレッジルームの定期的な活用(週1回以上) ・副籍(間接)交流を月1回程度実施	A	A	○授業ユニバーサルデザインを組織的に推進 ○数名の不登校生徒の別室登校再開 ○特別支援に関する研修の実施 ●支援を要する生徒の増加	B	○全校でユニバーサルデザインに取り組んでいるのはとてもよい ○一部の不登校が解消されているのよい傾向である ●支援を要する生徒の増加は教員の負担になっているのではないかと心配	・授業UDの取組の継続 ・特別支援委員会・SC・SSWと連携した組織的な支援 ・臨床心理士の効果的な活用
	子どもたちの健全育成	・子どもたちの健全育成に向けた取組の強化 ・校内委員会の活性化を図ることなどによる指導・支援の充実	・いじめアンケート学期1回実施 ・特別支援推進会議を情報共有型から支援提案型へ移行	・保護者の学校評価で肯定率85%以上 ・特別支援推進会議週1回実施	A	A	○未然防止を主眼に置いた積極的な生活指導 ○全教職員による生徒の見守りと細やかな対応	A	○教職員の細やかな目配りと未然防止を重視した組織的な取組を評価	・未然防止に向けた心の教育の推進、いじめの早期発見に努めるとともに組織的な対応に向けた研修
学校と家庭、地域、関係機関との連携強化	学校関係者評価の充実	教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施・改善	・一人一台端末を活用した学校関係者評価の実施	・生徒および保護者の評価アンケートを一人一台端末を活用しいずれも年1回実施	B	B	○生徒アンケートの端末を用いての実施(9月) ○保護者アンケート10月実施	B	○アンケートの結果を教育活動にうまく生かしてほしい	・アンケート結果の学校だけでなくHPでの速やかな公表と双方向の情報共有
	スクール・ソーシャル・ワーカーとの連携強化	・スクール・ソーシャル・ワーカーとの情報共有方法や役割分担の明確化	・スクール・ソーシャル・ワーカーと管理職、担任および不登校対応教員との連携強化	・学校不適応生徒に対する定期的な活用(月1回以上)	B	B	○SSWとの密な情報共有及び連携 ●生徒及び保護者の困り感の希薄さ故のSSWにつながることの困難さ	B	○●不適応生徒の増加が心配だが、関係機関と連携し対応してほしい	・情報共有と連携の強化 ・生徒や保護者への情報発信
特色ある教育の展開	「学校における働き方改革プラン」	「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の推進	・自己申告面接に基づく、働き方マネジメント力の向上	・時間外勤務時間を前年度比2割削減	B	C	○2学期からの視覚化による取組強化 ●業務内容の精選の必要性	B	○社会の大きなうねりでもあるので負担を軽減し進めてほしい	・ノー残業デーの継続、業務の軽減の工夫、タイムマネジメント力の向上
	小中連携教育の推進	「小中連携教育構想」及び「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実	・初任研修者の相互受け入れ・体験入学・部活動体験	・学区域児童の選択希望率80%以上	A	A	○予定通り小中連携行事の実施 ○平日の部活動見学受け入れ	A	○多くの児童が本校を選択してほしい	・保護者・児童からの見学依頼への柔軟な対応、学校公開等の小学校へのアナウンス
	学校行事の充実	生徒の自主的な取組を促したり役割を果たすことで自分を成長させる機会や場の充実	・実施可能な学校行事の実施 ・生徒の役割の充実	・生徒・保護者評価で肯定率85%以上	A	A	○全ての教育活動を予定通りに実施し、保護者・地域に開いたことで大きな信頼を得ている	A	○保護者や地域を大切にしていることが伝わっている	・開かれた学校への推進 ・地域や保護者の声の反映